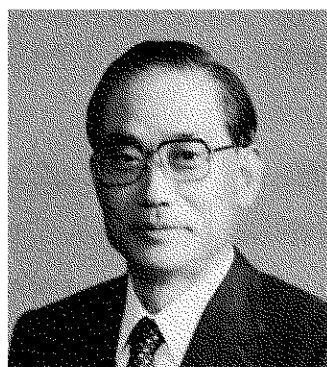


# ごあいさつ

Let us get together at our Forum !



(社)ニューガラスフォーラム

会長 瀬谷 博道

旭硝子株式会社 代表取締役社長

ASAHI GLASS CO.,LTD

President **Hiromichi Seya**

6月5日の総会にて、ニューガラスフォーラムの会長に選任されました。まことに名誉でありますと共に、これまで諸先輩が築き上げられた当フォーラムの運営をして行く責任の重大さを痛感しております。昨年は鈴木哲夫前会長のご努力により、創立10周年記念行事が盛大に催されました。着実に新しい市場を創造してきたこの10年目を、私は“ニューガラス市場が揺籃期から成長期へステップアップする一つの節目”と認識を新たにいたしました。

10周年記念行事の1つとして行われた「2005年のニューガラス市場予測」によれば、ニューガラス市場は1994年実施額の5,700億円が、2005年には約3倍の1兆68百億円に拡大すると予測されています。これを契機としフォーラムとして将来のあるべき像を考えて行きたいと思えます。

ガラス業界の現状は、コモディティ・ガラスの板ガラス、瓶ガラス、テーブルウェアなどは完全に成熟期に至り、バブル経済とその後の円高不況を経て、経験した事のない厳しい経済的危機に直面しております。しかし材料としてのガラスが永遠に生き残ることは疑いの余地はありませんし、またガラスが基幹材料である限り、私たちは、素材メーカーとして国際競争力のある生産活動を懸命に行って参ります。同時に、ニューガラスは材料としての極限の特性を追求するものであり、この新市場が需要予

測どおり、或いはそれ以上に拡大するには、ニーズとシーズの一層の密なる交流が重要である事は申すまでもありません。ニューガラスフォーラムの会員数は、創立時100社でスタートし、バブル期は一時170社に達しましたが現在は再び100社を下回るレベルとなりました。その大きな原因はユーザーサイドから見て、魅力溢れる新材料が乏しい事、シーズサイドから見て、新需要をユーザーサイドから必ずしも十分に提供されていないと言う事であろうと推察されます。元々“フォーラム”の意味は、日本流に言えば“井戸端会議”と解されるもので、材料メーカーと建築、自動車、化学、機械の他に、エレクトロニクや精密機械分野のユーザーとの肩の凝らない対話の中に多くのヒントが隠されている筈です。この意味でフォーラムの原点に立ち戻り、ユーザーとメーカーの欲しい情報の相互提供の場の充実を、衆知を集めて考えてゆきたいと思います。

又ニューガラスと言う新しい経済フロンティアを開拓するためには、基礎的技術シーズの産業化が必要となります。しかし多大なリスクを伴う技術開発を、企業単独で行うことには自ずと限界があり、国の積極的なリスクマネーの供給をお願いしたいと思います。

言うが易しく行方が難しであります、私は上記の様な意識を持ち、微力ながら最善を尽くす所存です。会員の皆様方、通商産業省、工業技術院、その他の機関の皆様、ならびに学界の先生方の一層のご支援とご協力をお願いする次第であります。

---

お詫び：前号(Vol. 11 No. 2)の巻頭言に瀬谷会長のごあいさつを掲載させて頂きましたが、事務局の不手際により誤字脱落がありましたので、本号に再掲載致しました。

読者の皆様にご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。

(株)ニューガラスフォーラム  
専務理事 森川 武